

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-3 地域生活交通の確保
---------	----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長 田中 浩史	電話番号	0852-22-5898
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	一畑電車運行維持事業		
目的	(1) 対象	一畑電車を利用する県民等	
	(2) 意図	生活交通機関として、一畑電車の安全運行の維持を図る	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 安全かつ円滑な運行を維持するために、一畑電車に対して、一畑電車沿線地域対策協議会を通じて基盤設備（線路・電路・車両）の維持・修繕・更新費や安全輸送設備等の整備費を助成する。 利用者数の増加を図るため、一畑電車沿線地域対策協議会に対して事業費を負担する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	一畑電車の年間利用客数	目標値	140.0	140.0	140.0	140.0	万人
	式・定義	一畑電車の運行維持に必要な利用客数	取組目標値					
			実績値	139.7	139.0			
			達成率	-	99.3	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	349,907 (計画値)	339,277
うち一般財源 (千円)	349,907 (計画値)	339,277

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年4月に策定した一畑電車沿線地域公共交通網形成計画（以下「網形成計画」という。）に基づき、一畑電車沿線の公共交通利用者の増加を図るための各種施策を実施している。
 また、平成28年4月に策定した一畑電車支援計画（H28～H32）に基づき、一畑電車の安全性及び利便性の向上を図り、老朽化した施設の整備及び更新を実施している。

○利用者の推移（H23～H28）
 H23(1,368千人) H24(1,389千人) H25(1,612千人) H26(1,425千人) H27(1,397千人) H28(1,390千人)

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・老朽化していた施設の整備及び更新、特に新型車両の導入により、これまで以上に安全性と利便性が向上した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・定期券の利用客（定期）は横ばいだが、平成25年度以降、観光等での利用者（定期外）が減少傾向。
 - ・さらなる運行の安全性、快適性確保のためには、現在、多くの車両に搭載されている制動機に対応した緊急時に対応できる制御装置の設置が望ましいが、まだ整備されていない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・沿線の人口減少、自動車利用の増加などにより、中長期的に利用者が減少傾向である。
 - ・これまで、多くの車両が旧型の制動機を搭載していたため運行自体にも支障がなく、また、新型車両の導入ほどの優先度も高くなかったため導入が見送られてきた。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・他の地域公共交通機関と連携しながら、自動車を運転できない高齢者や生徒の利用促進を図る。
 - ・既に導入した新型車両も搭載している現在主流となっている制動機に対応した緊急時の制御装置の導入に向け、平成29年度に設計、平成30年度に施工予定であり、当該事業を計画的に進めていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・関係機関と協力しながら、一畑電車の利用促進事業など網形成計画の各事業を積極的に進めていく。
 ・新型車両の導入の効果を最大限に活用していくためには、さらなる運行の安全性・快適性の担保のため設置が望まれる制御装置（回生失効防止装置）の整備など、平成32年度までの支援計画が着実に実施されるよう、関係機関と協力しながら各事業を着実に実施していく必要がある。